

(平成21年11月分)

部 門	市況の概要
野 菜	11月期の野菜の入荷状況は、葉菜類や果菜類が天候不順の影響を受けて入荷減となる品目が多かったが、果菜類についてはトマトの入荷が多かったことから入荷増となった。また、根菜類や土物類は前年並みの入荷となり、野菜全体の入荷量は前年並みとなった。 価格は、土物類が全国的な品薄状態から単価高となったが、根菜類、葉菜類、果菜類については、加工業務を中心に不況による需要の低迷から単価安となった品目が多く、野菜全体では前年同期を12%下回った。 品目別には、カブラ、キャベツ、トマトが入荷増の単価安、ピーマン、タマネギが入荷減の単価高となり、長ダイコン、西洋ニンジン、ハクサイ、レタス、キュウリ、ナスは入荷減の単価安となった。また、ホウレンソウは入荷前年並みの単価安、バレイショは入荷前年並みの単価高となった。 根菜類は、入荷が前年並みで、価格は18%安となった。 葉菜類は、入荷が4%減少し、価格は21%安となった。 果菜類は、入荷が13%増加し、価格は24%安となった。 土物類は、入荷が前年並みで、価格は11%高となった。
果 実	11月期の果実の入荷状況は、カンキツ類が表年のため入荷増となり、メロン類は熊本県や高知県からの入荷が増えて入荷増となったが、リンゴ類は前年が豊作だったことから入荷減となり、カキ類も需要の低迷による産地の出荷調整から入荷減となり、果実全体の入荷量は前年同期を3%下回った。 価格は、カキ類が産地の出荷調整により結果的に前年並みとなったものの、カンキツ類やリンゴ類は下位等級の割合が多かったため単価安で推移し、メロン類についても不況による需要の低迷によって単価安となったことから、果実全体では前年同期を14%下回った。 品目別には、ミカン、王林、富有柿、アールスメロンが入荷増の単価安となり、ジョナゴールドは入荷減の単価高、ふじリンゴは入荷減の単価安となった。 カンキツ類は、入荷が6%増加し、価格は31%安となった。 リンゴ類は、入荷が12%減少し、価格は4%安となった。 カキ類は、入荷が11%減少し、価格は前年並みとなった。 メロン類は、入荷が6%増加し、価格は17%安となった。

主要品目（野菜）	市況の概況
【根菜類】 長大根	千葉県を中心に、青森県、徳島県、石川県、和歌山県からの入荷。各産地ともに豊作傾向であったものの、主力の徳島県での生産面積が減少したことにより、入荷量は前年同期を 7 % 下回った。 価格は、加工業務を中心に不況による需要の低迷が続いており、入荷減ながら前年同期を 2 9 % 下回った。
カブラ	京都府、北海道、滋賀県からの入荷。 前年が単価高で推移したことから各産地とも生産面積を増やし、入荷量は前年同期を 3 4 % 上回った。 価格は、入荷増と不況による漬物需要の低迷から単価安で推移し、前年が高値推移したこともあり、前年同期を 5 3 % 下回る結果となった。
西洋ニンジン	北海道を中心に、長崎県、鳥取県、千葉県、愛知県からの入荷。北海道産が前進出荷で切り上がりが早く、入荷量は前年同期を 3 % 下回った。 価格は、不況による需要の低迷から前年同期を 4 % 下回った。
【葉菜類】 ハクサイ	茨城県を中心に、長野県、滋賀県、群馬県、岡山県からの入荷。各産地とも中旬の多雨によって作柄が悪化し、全体の入荷量は前年同期を 1 0 % 下回った。 価格は、加工業務を中心に不況による需要の低迷が続いており、入荷減ながら前年同期を 2 1 % 下回った。
キャベツ	愛知県を中心に、茨城県、滋賀県、群馬県、長野県からの入荷。各産地とも収穫期の降雨によって一部作業遅れがあったものの、作柄は良く入荷量は前年同期を 3 % 上回った。 価格は、不況による需要の低迷に加え、前年が高値推移したこともあり、前年同期を 5 8 % 下回る結果となった。
ハウレンソウ	京都府を中心に、岐阜県、徳島県、滋賀県、茨城県からの入荷。各産地とも生育順調で、入荷量は前年並みとなった。 価格は、不況により需要が低迷しており、前年同期を 1 3 % 下回った。
レタス	兵庫県を中心に、茨城県、長崎県、徳島県、香川県からの入荷。各産地とも中旬の多雨によって作柄が悪化し、全体の入荷量は前年同期を 1 1 % 下回った。 価格は、加工業務を中心に不況による需要の低迷が続いており、入荷減ながら前年同期を 2 7 % 下回った。

【果菜類】 キュウリ	宮崎県を中心に、滋賀県、高知県、福岡県、北海道からの入荷。 各産地とも中旬以降は曇天の影響から生育が鈍り、全体の入荷量は前年同期を3%下回った。 価格は、加工業務を中心に不況による需要の低迷が続いており、前年同期を26%下回った。
ナス	高知県を中心に、岡山県、京都府、徳島県、熊本県からの入荷。 各産地とも上旬の急激な冷え込みによって着果不良が見られ、入荷量は前年同期を21%下回った。 価格は、加工業務を中心に不況による需要の低迷が続いており、入荷減ながら前年同期を4%下回った。
トマト	熊本県を中心に、茨城県、滋賀県、岐阜県、京都府からの入荷。 夏季の日照不足で生育の遅れていた夏秋物の入荷が続き、入荷量は前年同期を43%上回った。 価格は、入荷増により前年同期を36%下回った。
ピーマン	宮崎県を中心に、高知県、茨城県、鹿児島県からの入荷。 各産地とも上旬の急激な冷え込みによる影響から作柄が悪化し、入荷量は前年同期を21%下回った。 価格は、入荷減により前年同期を9%上回った。
【土物類】 バレイショ (メーク含む)	北海道を中心に、長崎県、高知県、徳島県からの入荷。 北海道では夏期の長雨と日照不足により作柄が悪かったものの、中央集散機能の発揮により、入荷量は前年並みとなった。 価格は、全国的な品薄状態が続いており、前年同期を37%上回った。
タマネギ	北海道を中心に、兵庫県、アメリカ、中国、大阪府からの入荷。 各産地とも生育期の日照不足等により作柄は悪く、中央集散機能が発揮されたものの、入荷量は前年同期を3%下回った。 価格は、全国的な品薄状態が続いており、前年同期を38%上回った。
【その他野菜】 生シイタケ	徳島県を中心に、和歌山県、広島県、岡山県、北海道からの入荷。 北海道と和歌山県の生産面積が増えたことから、入荷量は前年同期を14%上回った。 価格は、入荷増により前年同期を16%下回った。

主要品目（果実）	市況の概況
ミカン	和歌山県を中心に，福岡県，長崎県，愛媛県，熊本県からの入荷。本年は表年のため，小玉傾向ながら着果数は多く，入荷量は前年同期を 6 % 上回った。 価格は，入荷増に加え，単価の安い小玉傾向での入荷となったため，前年同期を 3 2 % 下回った。
ジョナゴールド	青森県を中心に，岩手県，秋田県，長野県からの入荷。 他品種へ需要が移行していることから各産地とも生産面積が減少しており，入荷量は前年同期を 2 1 % 下回った。 価格は，大幅な入荷減により前年同期を 5 % 上回った。
ふじ （サン含む）	長野県，青森県を中心に，岩手県，山形県，秋田県からの入荷。 各産地とも生育期の降雨により玉太りは良かったものの，前年が豊作だったことから，入荷量は前年同期を 9 % 下回った。 価格は，つる割れ果等の下位等級の割合が多く，入荷減ながら前年同期を 7 % 下回った。
王林	長野県，岩手県を中心に，青森県，秋田県，山形県からの入荷。 他の黄色系りんごが品薄状態だったことから各産地とも出荷時期を早め，入荷量は前年同期を 1 7 % 上回った。 価格は，入荷増により前年同期を 5 % 下回った。
富有柿	奈良県を中心に，福岡県，京都府，和歌山県，滋賀県からの入荷。各産地とも小玉傾向ながら着果数は多く，入荷量は前年同期を 3 % 上回った。 価格は，単価の安い小玉傾向での入荷となったため，前年同期を 8 % 下回った。
アールス	静岡県を中心に，熊本県，高知県，宮崎県，茨城県からの入荷。 静岡県では作付面積が減少しているものの，他産地からの入荷が増加しており，入荷量は前年同期を 1 0 % 上回った。 価格は，入荷増と不況による需要の低迷から，前年同期を 2 0 % 下回った。